

1992-93年度国際ロータリーのテーマ



まことの幸福は人助けから



Real Happiness is Helping Others

- 国際ロータリー会長 クリフ・ダクターマン
- 第 2560 地区ガバナー 栗山 清
- 会長——内山辰策 ● 副会長——上木六治
- 幹事——榎本 勝 ● 副幹事——五十嵐総一
- SAA——渋谷正一 ● 副SAA——松谷晃吉 ● 例会日——毎週水曜日 12:30 ~
- 例会場——三条市旭町 2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町 2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

出席者会員数

会員 78名中 54名

先々週出席率

94.67% (前年同期 90.00%)

今日のお花

カーネーション、オンシウム

ヴィジター

三条南より 清水鉄男さん、坂本洋司さん、小金沢義雄さん、
丸田肇一さん、嘉瀬 修さん
三条北より 外山晴一さん、笹原勝治さん

先週のメイクアップ

- 4/13 東京西南へ 渡辺勝利さん
- 4/15 燕へ 渡辺勝利さん、藤田紘一さん
- 4/17 会長エレクトへ (前橋) 上木六治さん
- 4/19 三条南へ 五十嵐総一さん、石橋育於さん、五十嵐昭一さん、木許紘一さん、
外山雅也さん、渡辺喜彦さん
- 4/20 三条北へ 渋谷健一さん、榎本 勝さん

会長挨拶

内山(辰)会長

心配された桜花も季節と供にばあーと咲き八重桜がぼつぼつ咲き初めた此頃、当クラブも多数の新入会員が入会されて桜の花の様にばあーと明るい此の頃です。又出席率も最近非常に良くなり、桜の花と同じでして、時期が来るとよく開くものだと感じて居ります。私もあと2ヶ月で終了ですが最後が良ければすべてよしでありまして大変喜んで居ります。

25日の見附ロータリーの10周年記念でございますが、当クラブから約40名の方の登録を受けまして、見附ロータリーでも喜んで居られます。私も面目を果したと思っております。有難うございました。

幹事報告

榎本幹事

◎新潟中央RCより 認証状伝達式のご案内がとどいております。

とき 6月19日(土)

ところ ホテル新潟

登録 AM10:30~

ニコニコBOX ¥24,000

4月21日分

外山晴一さん(三条北)

いつもお世話になっております。この前は私にまで創立記念のワインをいただきありがとうございました。

野村さん 昨日47年の勤めを終え定年退職致しました。今後共に宜しく願い致します。

捧さん おかげさまで財団法人雪梁舎を設立させていただきました。本成寺の春の宴を開催させていただきます。御参加をお待ち致しております。

高橋(一)さん 20日間のアメリカ旅行を楽しんで来ました。

五十嵐(晋)さん 18日に上野国立博物館で特別展“大和古寺の仏たち”をみてきました。あまりの人で仏さんもびっくりしていられたことでしょう。

杉野さん 桜花らんまん、年中で一番よい季節を迎えました。

五十嵐(力)さん 川又さんの卓話ご期待します。

阿部さん 川又さん都合で卓話が聞けなくて残念です。ごめんなさい。

小林(正)さん 都合に依り早退させていただきます。

古澤さん 川又さんの卓話楽しみにしております。

内山(辰)さん 今日健康で例会に出席することができました。ロータリーの社会奉仕活動に協力してボックスへ。

卓話

川又嘉瑞範会員

1. 交換学生について

当クラブに今年交換学生を向えますが、多分その事についてたずさわった方以外は、くわしくお解りないと思っ、特に新入会員の方々はややもすると異った認識をされていると後で非常につらい思いをする。自分がそうであったから、交換とは此ちらから学生を送ってやれば、必ず相手国から学生が来るのです、その方を受け入れる義務があります。

自分もクラブ入会後4年位の時、交換学生を受け入れて非常につらい思いを致しました。特にトイレとシャワーの問題です。当クラブで最初に鈴木会頭さんが受け入れられた様に聞いていますが、受け入れられた会員の方には非常な、迷惑を掛けて居る事は事実でありますし、家の一部が新らしくなるのも事実です。その様な事で受け入れると言う事は大変なことです。

国際奉仕委員会が国際交流の取組を行って来たが今回国際奉仕委員会の中に、青少年交換委員会と言うものが作られた。それには疑問を感じているが、決められたのだからしかたがない。

自分は来年度その青少年交換委員長をやる事になった事と娘を6年前交換学生としてカナダのテラスに送り出したので説明をしますが交換学生には

○夏期交換学生

約20日間、新潟(三条)、群馬、2~3年に1回、当クラブで送り出す代表学生を決める受け入れ、ホストファミリー1、2軒、その間、日本の文化地域の文化習う。

歓迎会、公式訪問 ロータリー、市長等

○一年間交換学生

約一年間クラブより代表を選び海外へ送る。又海外より一年間学生を迎える。ホストファミリー3~4軒、学校、入学、日本の文化見学、実習、家族及び関係クラブ担当等費用は大きい。

日本と海外のRCの格、質がちがう。

日本の学生は自立出来ないが、海外の学生は、自由のしつけの中でも自立と自覚がある。以下、川又会員の娘さんのレポートを見て載いて理解して載きます。

●3ヶ月ごとにロータリー会員の家を、1年間で4回ホームステイした。

第1回目はその時の委員長のところへ3ヶ月間滞在

●1ヶ月のおこずかいはカナダドル(6年前で約1\$=¥100)で\$60位ロータリーの方からもらっていた。



- 毎週水曜日の定例会では必ず出席させられ、何か学校行事があるたびに発表させられた。
- カナダのプリティッシュコロンビア州で留学している世界各国のロータリー学生の集いが、2ヶ月に1度、バンクーバーで行なわれ、万博に行ったりスキーに行ったりと総勢約50名程でレジャーを楽しみ、交流を楽しんだ。夏にはアメリカ横だんのキャンピングツアー（約3週間）などがあり、一緒にグランドキャニオン登山、テントでの寝泊まり、その後のパーティー等々で親しい友人がたくさんできた。この集いが今思い出すと一番楽しかった。
- バンクーバーまでの飛行機代等は全てロータリーからでたが、旅行ツアー等の費用は個人もちのときもあった。

家庭編

①番目

最初の家とあって一番思い出深い、ロータリー委員長のお家で、共かせぎで、私と同じ位の娘が1人いた。けっこう放任主義の家庭で、食事はマクドナルドのハンバーガーという事も多々あった。

しかし、両方共一生懸命英語をゆっくり話してくれ、学校のせわなど親切にしてくれ、一番仲良くなった家である。バンクーバーの方へ行く時に連れてってくれたり家族の一員のようにあつかってくれた。その代わり、そうじ、庭そうじなどは娘と一緒にやられた。楽しい一時をすごした。よく湖に泳ぎに行った。

②番目

2番目の家は、1番目の後だからか、なじみにくく、又小さい子が2人いたが、小さい子供になれていなく、自分も子供だった私はとてもうるさく感じいやだった。

しかし、食事等はしっかりしており、又よくキャンプに連れていってくれたりもした。この母親が社会福祉等に一生懸命で、ねたきり老人ホーム、障害者センターに連れていかれ、おりがみ講習をしたりした。

③番目

この家は夫婦共に若く、又日本にとっても興味ある人達で、日本食の作り方を教えたり、その代わりにカナダのケーキの作り方、オムレツ等など教えてもらったりと、一緒によくすごした。又2才の小さい男の子がいて、よくベビーシッターしたり、その子がすごくなついて、とてもかわいかった。

よく山にハイキングに連れていってもらったし、クリスマスはこの家ですごしたので、プレゼントをお母さんと買いに行ったりと、友達のようにであった。

④番目

この家の娘は、学校で一番仲良くなった女の子の家で、家族と一緒にになってご飯を食べ

るという習慣のない家だった。しかしながら常に友だちが行き来してきて、楽しかった。母親がちょっと病気がちで、不在の事が多かったのでよく一緒に娘と夕食をつくったり、勉強したりしていた。

典型的なカナダの家庭であった。

◎4件の家庭を回ったが、それぞれ全部違うタイプでとても良い勉強になった。やはり受け入れ側がお客様でなく、家族の一員として扱ってくれると、とてもホッとしたものでした。

学校編

◎向こうの学期は、9月～8月のため、私は4月からという異例の入学となった。しかし、最初は英語の不十分のため、先生が1人ついてくれ、1日1時間～2時間会話の勉強、その他は、選択授業での美術、体育、料理等を選んで受けていた。日本人の1人もいない環境のせいか、3ヶ月もすると大体の事は聞けたし言えるようになった。

◎友達は、私の場合すごくラッキーで、親切にいつもついていてくれる女の子がいた。その子を通して男女共、自然に友人が増えていき、とても楽しくなってきた。しかし言葉が一番の壁でひまさえあれば辞書を見てその言葉を実際に使うよう心がけた。発音は友だちが舌の出しかたとかの音の出し方を教えてくれた。

◎おどろいたのは、ほとんどの友人約95%はアルバイトをして自分のこずかいをかせいでいた。中には大学へ行くお金をためている人達もいた。

◎卒業式では着物を着て出席。とても思い出深い。

2. ケルン・インターナショナル金物フェアと円高について

三条貿易振興会の方達が、此のフェアに出店参加されています。

以前は此のフェアで年間の契約がされていました。そんな背景で今年も参加致したが特に異常な事が起きました。たまたま円高で1\$=115~117円頃でした、半年前に比べるとマルクがそのまま円が17~18%高(対マルク) その様な状況の中で貿易が仲々決まらない時期に見本市にのぞんだ。ヨーロッパの各種商品を扱っている代理店が、我々ブースに来て急に御見積り書の提出をと求め、その数は膨大な量であった。過去にない異常な現象で理解が出来なかった、それはヨーロッパの市場統一が行なわれる事で各国々にあった代理店体制が崩れ従来代理店系列から買わなければならなかったことがどこからでも買ってよい状態に変わった、そんな状況の中、自分の利払の様なものすべて無くなったと言うのが今回の特徴である。マルクが¥に対し20%でヨーロッパでは一番高い、マルクが中心で伊リラ20%安く英、佛は各々15%安い、だから日本の¥に比較すると伊リラは40%も安い、それが此の度の実体であったEC各国は全部為替の差があった、此れでは日本は商売が出

来なくなる、輸出が出来なくなると感じた。台湾はどうか、その時は日本より8%安かった、台湾ブースは非常に、にぎわっていた日本ブースは人は多くは来たけれど、商売に成らなかった。米国は非常にブースを伸ばしてるのもよく感じた。しかし米国商品は買える物は無かった事も目を見はった。さて円高で即、対応策として直感したことは今ここで、ヨーロッパと商売が出来ないならば、二度と取り引きが日本にもどって来ないと判断して、取引の相手とギャップの半分を負担するから取り引きを継続してほしいと、商談のすべてを進め、帰国した。

現在\$=110円、自社の例で韓国と6~8月契約、127円が110円で約1000万の損、貿易では円高の脅威は円で契約すれば、相手が全部かぶることに成り契約はして呉れない。だから円高とは輸出企業にとっては大変な事態になって居ります。

三条市内で輸出の出来る商品は片手で数える程度しかないとかつて堀川さんが言って居られた。だから此の円高でかなり日本はたたかれる事は間違いありません。会員の皆さんの中で50、60才でも円レートと輸出の関係を解らない方も居られるであろうと考え、お話しをしました。

4月28日例会 卓話 県議会議員 滝口恵介殿

5月5日例会 休 会

5月12日例会 春のグルメ例会 於 寺泊ととや PM6:00~
